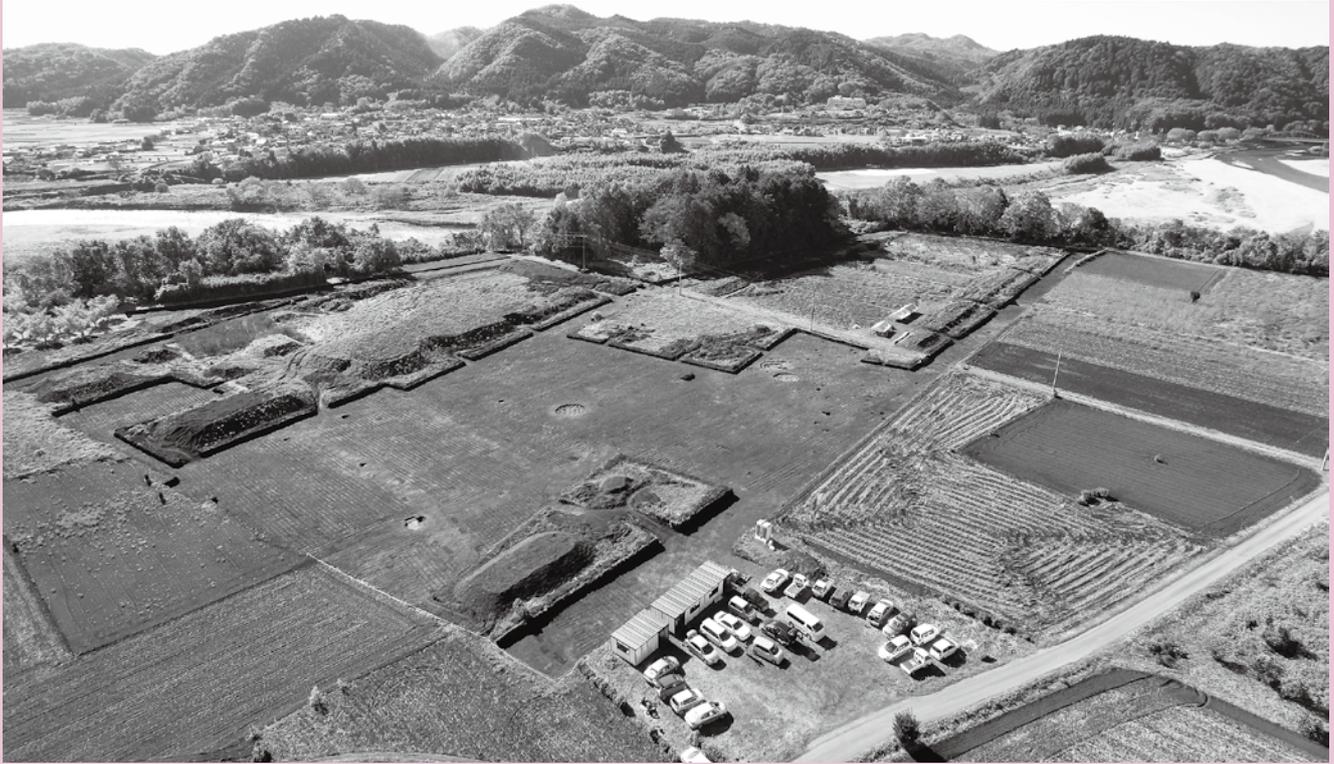


あか いわ 赤岩遺跡・三美中道遺跡 み よし なか みち 発掘調査の成果報告

平成24年8月～12月にかけて三美地区で実施された、赤岩遺跡及び三美中道遺跡発掘調査の成果がまとめられました。



▲調査区全景 北東から那珂川・御前山方面を望む 手前が三美中道遺跡、奥が赤岩遺跡

1 旧石器時代 ～茨城県最多の礫群発見！

約20,000～14,000年前の後期旧石器時代の礫群^{れきぐん}* 3基と石器等の集中地点3カ所が確認されました。特筆されるのは礫群の密集度が非常に高い点で、第1号礫群で196個、第2号礫群で88個、第3号礫群で138個といずれも大型でした。茨城県内で礫群が発見されている事例は26遺跡51例で、高萩市の赤浜遺跡の169個が最も多い事例でしたが、今回の発見はこれを上回って県内最多となり、学史に名を残す成果となりました。

また、石器等は851点が確認されていて、ナイフ形石器や彫刻刀形石器等が見つっています。石器の材質は様々で、常陸大宮市にはおなじみのメノウも多く見つっています。中には黒曜石^{くわうせき}やオパールのように遠方でしか産出しない石材を用いたものもありました。これはこの時代の人々が広範囲に移動し、交流していたことを示すものです。

※礫群…使用した石の集積した場所



▲ナイフ形石器



▲オパールでできた石核石器^{せつかく}

2 縄文時代 ～この時代の特徴をよく表わすムラ発見！～

縄文時代中期(約5,000～4,000年前)の集落跡が確認されました。フラスコ状土坑※等が101基確認され、その中からこの時期特有の大型の深鉢が多数出土しています。土坑を中心として、その外側に住居跡があるという、この時代の典型的な集落の配置であることがわかりました。今回の調査成果は、三美地区から緒川を挟んだ野口地区西埜遺跡の平成21年調査成果ととても似ていて、両遺跡の関連性が注目されます。



▲遺物出土状況



▲出土した深鉢

※フラスコ状土坑…食糧等を蓄えるための地下の穴。名前の由来は理科実験に用いる三角フラスコに似ていることによる。

3 室町時代 ～牛石伝説の長者屋敷発見?!～

上端の幅5m、深さ2.1～2.7mという大規模な15世紀後半の堀跡が確認されました。ここに城館があったことを示すもので、この堀には一旦埋められた後、またすぐに造り直した痕跡も残っていました。この時代の茨城県北部では、山人の乱と呼ばれる佐竹氏の内乱に鎌倉公方や関東管領等が絡む複雑な争いが繰り広げられていて、那珂川・緒川という水上交通の要衝である三美地区において、防御力のある城館が必要とされたことがうかがわれます。

昭和58年に、三美地区でゴボウを耕作中3,929枚もの埋納銭が発見され話題になったことをご存じでしょうか。この埋納銭が埋められた時期は、今回発見された堀が廃棄された時期とほぼ同一で、堀は埋納銭の出土した地点を区画するかのようでありました。これらのことから、両者が関連することは確実です。また三美地区には「長者と牛石」という民話が伝わっています。「家の普請と庭づくりを道楽にした長者が、飼っている牛を酷使して死なせてしまい、それを悔いて牛石を建てて供養した」という話で、長者の家は一代で潰れてしまったそうです。現在でもこの牛石は三美地区の県道沿いに残っていて、そこは発見された堀から100m少々しか離れていません。堀に囲まれた城館に住み埋納銭を残した人物は、この民話に登場する長者かもしれません。



▲発見された堀跡



▲民話を現在に伝える牛石

今回の発掘調査では、たくさんの方にご協力いただきました。これらの成果は私たちのふるさと常陸大宮市の成り立ちを知るための貴重な資料となります。ふるさとの歴史と文化を知り郷土愛を育むため、今後とも埋蔵文化財行政にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

■問い合わせ■

生涯学習課 生涯学習グループ
☎52-1111 (内線344)